

### (7) 飯田まつり

11月9日(土)に飯田小学校で開催された地域のお祭りに参加しました。高等部生徒は、作業製品販売や遊びコーナーの運営を通して、販売の仕方を工夫したり、主体的に地域の方と関わったりする様子が見られました。



小学部図工作品や中学部作業製品などの展示をじっくり見て感想を寄せてくださる方も多くいました。

中2有志の生徒は、お日待ち太鼓保存会たちばな蜂文末会の皆さんと一緒に和太鼓の演奏をしました。授業で練習を重ねた力を発揮し、堂々とした演奏で大勢の観客から拍手をいただきました。生徒の誇らしげな表情が印象的でした。



### (8) 秋葉山大祭

2025年12月16日、高等部生徒が作業製品販売のために秋葉山大祭に参加しました。お祭りに来る一般の方を相手に、作業製品の説明を行ったり、販売対応をしたりすることができました。秋葉山大祭は有名なお祭りで、毎年12月15、16日に行われます。友達や家族とお祭りに参加したことのある生徒も多く、そのお祭りで自分たちが作業学習で作った製品を販売できることにモチベーションは高かったようです。御対応いただいた天野さん、ありがとうございました。



(9) しみずワクワクまつり

2025年12月14日、高等部生徒が清水駅東口で開催された「しみずワクワクまつり」に学校紹介や作業製品販売のために参加しました。近隣県からの出展団体等もあり、販売だけではなく、様々な交流を行うことができました。



(10) くふうハヤテベンチャーズ静岡（現 ハヤテベンチャーズ静岡）応援

学校全体で地元の野球チーム「くふうハヤテベンチャーズ静岡（現 ハヤテベンチャーズ静岡）」の応援を行いました。以下の写真は高等部生徒が校内で応援を呼び掛けている様子です。応援動画も作成して、試合当日に球場で流していただきました。



### (11) 静岡県SDGsスクールアワード 2025

SDGsの理念を広く根付かせることを事業目的とした「静岡県SDGsスクールアワード 2025」に清水特別支援学校の中学部と高等部が応募(90秒以内の紹介動画)しました。高等部は特別支援学校の部にて県教育長賞、中学部は企業賞としてJA静岡中央会会長賞を受賞しました。写真は札の辻クロスホールで行われた表彰式の様子です。



### (12) SHIUOKA TANKYU COLLECTION

2025年1月12日、グランシップで「SHIUOKA TANKYU COLLECTION」に高等部生徒が参加しました。「探究は冒険。あなたの個性が未来の可能性になる。」というキャッチコピーの基、探究学習・ボランティア活動の成果を発表する部門に参加し、「人々の笑顔と幸せのため未来につなげ私たちのSDGs」というテーマで、作業学習SDGsの取り組みを発表しました。スペシャルサポーターの酒井淳平様(立命館宇治中学校・高等学校教諭)、吉永卓志様(学校法人鈴木学園法人本部副本部長)から講評をいただくこともできました。



(13) しずおか高校生探究フェスタ

2025年2月1日、常葉大学静岡草薙キャンパスを会場に開催された「しずおか高校生探究フェスタ」の展示部門に高等部生徒が参加しました。清水特別支援学校は、映像や掲示物で作業学習を含む学校紹介等も行いながら、作業製品の販売を行いました。

【展示部門】特別支援学校を含む参加者の探究学習の成果発表として、ブースごとに展示・販売・体験コーナー等を実施する部門



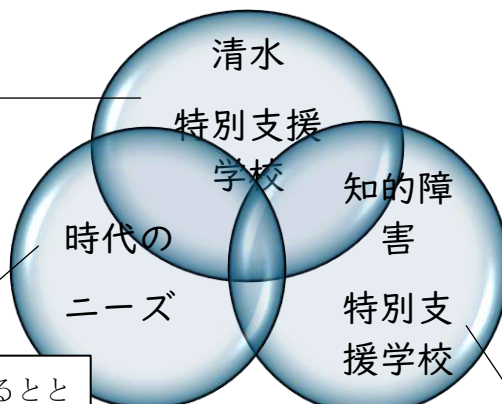
## 11 研究、研修の記録

### (1) 令和7年度の研修

1. 研修テーマ「自ら学び、良さを伸ばすこども～AARサイクルを活かし、各教科等を合わせた指導の特長を捉える授業づくり～」

#### 2. テーマ設定の理由

学校教育目標  
 ともにあゆみ、ともにかがやく  
 ⇒良さを伸ばし自分で考え挑戦する  
 姿を引き出す授業づくり  
 ○『主体的に活動する姿』  
 ○学習過程の見取り



「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要」  
 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』

学習特性を生かす  
 ・生活場面に即して  
 ・繰り返し  
 ・具体的な内容  
 ・自信、意欲を育む

#### 3. 研修の仮説

各教科等を合わせた指導の特長を活かし、子どもにとって目的を捉えやすい学習場面で、こどもが「見通し (Anticipation)」「行動 (Action)」「振り返り (Reflection)」の学習過程を繰り返し踏めるように必要な支援をすることで、こどもは学ぶ力を体得し、自分の良さをさらに伸ばしていくことができるだろう。



絵：廣 国睦先生

#### 4. 研修の方法

##### (1) 助言者を招いた校内授業研究会・公開授業研究会の実施

講演講師	所属
佐藤 慎二 特命教授	植草学園大学

小学部助言者：小嶋 真子氏 (浜松特別支援学校)

中学部助言者：徳増 五郎氏 (株式会社 Build WORKS Lab 取締役)

高等部助言者：山川 裕子氏 (御殿場特別支援学校)

##### (2) 各学部研修

【小学部】『こどもが「やりたい。」と意欲的に学習に取り組む姿』に迫る授業づくり

【中学部】生徒たちが『いきいきと学ぶ』生活単元学習の授業づくり～私たちが住む自慢の「清水」を題材にして～

【高等部】『自ら学び、良さを伸ばす姿』を引き出す授業づくり～つながりを意識した単元づくりと、生徒が自分の良さに気付き、良さを伸ばす作業学習～

## 5 小学部の実践

(1) 前期実践 6月20日 小学部6年 18名 授業者：飯田藍子先生

### 生活単元学習『七夕まつりをしよう！』

お客さんが来るの  
楽しみだな～



みんなが  
来てくれた！



【目標】七夕まつりを通して、下級生を笑顔にするためにリーダーとして会の運営をすることができる。

(2) 公開授業研究会 11月13日 小学部2年 13名 授業者：笹間彩乃先生

### 遊びの指導『たんけんたい！ 秋であそぼう！』



はっぱのおふろ、  
気持ちいいな～！

今日はどんぐりで  
アイス屋さん！



【目標】自然物（葉や木の実など）で遊ぶことを通して、教師や友達と一緒に自分の好きな遊びを繰り返したり自分なりに遊び方を考えたりして遊ぶことができる。

## 6 中学部の実践

(1) 前期実践 6月12日 中学部1年 19名 授業者：古家香利先生

### 生活単元学習『清水食べ物探偵団！』

私、清水の食べ物、  
知ってる！



次はツナのミニピザ  
にしてみよう。



【単元目標】清水の特産物を調べたり、食べたりする活動を通して、それらの特徴や産地、味が分かり、清水にはたくさん美味しい食べ物があることを知り、表現することができる。

きる。

(2)公開授業研究会 11月13日 中学部2年 19名 授業者：深澤雄紀先生  
生活単元学習『清水じまんフェスティバル』がんばるぞ！



みんなで一緒に港か  
っぽれ踊ろう！



発表、  
がんばるぞ！！

【単元目標】『清水じまんフェスティバル』に向けて、自分の役割を果たし、仲間と創り  
上げようと取り組むことができる。

## 7 高等部の実践

(1)前期校内授業研究会 7月14日 木工芸班 計15名 授業者：山崎琢矢先生  
作業学習『ニーズのある製品を作ろう』

自分が触って痛くな  
くなるまで削ればい  
いのか！



研磨できました！



【単元目標】お客様に買ってもらえる製品を作るために、自分の作業工程で気を付けるポ  
イントを意識したり自分で工夫したりして、製品づくりに取り組むことができる。

(2)公開授業研究会 11月13日 印刷工芸班 計16名 授業者：山田真帆先生  
作業学習『目指せ、お客様評価五つ星！～清水の魅力が詰まった紙製品を作ろう～』

今日難しかったところ  
は、明日はがんばりたい  
です。



紙すきが上手にでき  
た！今日の僕は花丸  
だ！



【単元目標】より良い製品を作るためのやり方を実践したり、気づきを仲間に伝えたりし  
ながら製品づくりに取り組むことができる。

## 8 研修の振り返り

### (1) 公開授業研究会参加者アンケートより

<p>・子どもたちが最後まで遊びきる姿を見て、2年部の先生方の準備や働きかけの共通理解を綿密にやってきたことが想像できました。子どもたちが楽しそうな姿がとても素敵でした。先生方の見守りという姿勢が勉強になりました。(小)</p>
<p>・遊びの中から子どもたちの「好き」を見つけていき、そのためにわくわくする仕掛けや工夫がされており、とても参考になりました。(小)</p>
<p>・生徒たちが前期の学習を基に、劇や踊りを構成し、自信を持って表現活動をしていた。先生方は黒子に徹して笑顔で見守り、こどもが主語という研修テーマを想起させた。参観者参加型の授業展開も、斬新だった。(中)</p>
<p>・生徒のやってみようという思いから始まるものでとても良かった。生徒の力を生かすためにどのように教師が関わり、引き出していかを良く話し合われていると感じた。また、地域とのつながりがとても良かった。(高)</p>
<p>・地域資源を作業で活かすためには、生徒理解や授業計画が大事になる。清水特別支援学校では、販売会を中心に取り組むことができ、常に品質向上に向けているところなど勉強になった。(高)</p>

### (2) 校内教員学校アンケートより

<p>・子どもたちの「やりたい！」や「もっと！」を引き出すたくさんの素材や活動、環境設定を考えて、学年教員全員で授業作りができた。</p>
<p>・児童も教員も楽しみながら、目的を押さえた授業ができているように思う。笑顔で意欲的に活動に取り組み、学習したことの素敵なつぶやきも聞くことができた。</p>
<p>・作業学習ではより良い製品を作る意義が分かって臨んでいる生徒が増えた。参観した際に、自ら製品の良さを伝える生徒もいる。環境設定から作業日誌の様式、使い方など、自分で作業を進められたり、何のために、何に気を付けて取り組んでいるか答えられたりする姿が見られた。作業製品の販売会とフィードバックを繰り返すことで、生徒が「もっと〇〇したい」と意欲的な姿がみられ、生徒主体の授業づくりが展開できるようになっている。</p>
<p>・AARを活用することで、授業づくりの段階から、児童生徒を中心にした話し合いができている。授業での見取りを話し合うことで、児童生徒を主語にした学びになっていると感じる。</p>
<p>・来年度は、AARのRの部分研修することで、その日の授業の評価から、翌日の導入の部分が深まるのではないかな。</p>

### (3) まとめ

校内で子どもたちと教師とが共に作り上げた授業は、学校教育目標である「ともにあゆみ、ともにかがやく」実践であった。2年間の研修成果を引き継ぎ、今後も子どもと教師

が共に、良さを伸ばし自分で考え、挑戦する授業づくりを目指していきたい。

## (2) 教育課程検討プロジェクト

「児童生徒の興味や思考に沿った教育課程の編成」「主体的な業務改善と効果・効率化の推進」を目的に、全校の学年主任が月一回程度集まって、話し合いを行っています。

『12年間のつながりのある年間指導計画の検討』や『教員自身にとって働きやすい職場環境にするための工夫』などのテーマを設定し、それに応じて、学部ごとのグループや、小中高の学部の枠組みを超えたグループで協議しています。このプロジェクトを通して、児童生徒の学校生活を12年間つなげて考えることができ、学年主任にとっても大切な情報交換の場となっています。

これからも、児童生徒の学校生活がまとまりのあるものになるように、そして教員にとっても働きやすい職場環境になるように話し合いを重ねることで、より良い学校づくりにつなげていきたいと考えています。



## (3) ICT推進プロジェクト

令和6年度より、「目的を明確にしたICT活用により、授業や支援を充実させ、児童生徒が主体的に考え、伝えながら活動に取り組む姿」を目標に実践を進めてきた。タブレット端末(iPad)を活用し、GoodNotes6やDropTAPを中心に授業や支援へ取り入れた。これらのアプリを活用することで、活動内容や自分の考えを整理し、学習の見通しをもって取り組む姿が増えた。また、シンボルを用いて気持ちや要求を伝えるなど、コミュニケーションを通して主体的に活動へ参加する場面が多く見られるようになった。また、校内では、教職員の91%が授業場面でICTを活用していると回答し、ICT活用が校内全体へ広がっていることが確認できた。さらに、中谷正恵さん・亜希さんを招聘した学習会では、保護者および教職員がタブレット端末を実際に操作し、コミュニケーションを引き出す支援の在り方について理解を深めた。これらの取組を通して、障害のある子どもであっても、ICT活用により主体的に活動へ参加し、コミュニケーションを広げられる可能性が示された。



「ICT活用学習会」中谷正恵さん、亜希さん

#### (4) はごろも『夢』講演会

公益財団法人はごろも教育研究奨励会主催で、はごろも『夢』講演会が開催されました。日本ペップトーク普及協会代表理事の岩崎由純氏をお招きし、テーマ「今日出会う人にとって一番素敵な人になる～大人も子どももやる気になるペップトーク～」でお話をいただきました。笑顔あり、涙あり、岩崎氏の熱い思いに会場全体が包み込まれ、あっという間の90分でした。ありがとうございました。



#### (5) 清特OJT

『学び合う教師集団を目指して』令和6年度より、『①ベテラン教員の得意なことを活かすことでやりがい』『②ベテランから若手への技の継承』この二本を柱にして、学び合える関係性を築けるように清特OJT (On-The-Job-Training) の取り組みが始まり、今年で2年目になります。

「自分の得意分野を活かしたい!」「誰かの役に立ちたい。」「もっと職場をよくしたい!」そんなベテラン教諭の熱い想いを大切にしたい人材資源の有効活用をしています。

やりがい



技の継承



「聞きたいけど先輩たちは忙しそうで聞きにくい。」「誰に聞いたらいいかわからない。」「どうやったら上手くいくかな。」「〇〇の方法について知りたいな。」などの「知りたい」「教えてほしい」という若手のニーズと、中堅以上の教諭との橋渡しをすることで、それぞれの知識や技の継承を、また気軽に声を掛けられる関係作りを目指しています。

OJTを通じて学部・学年を超えて相談をし合う姿が増え、それぞれの強みを活かした研修を進めることで、専門性を高め合い学び合う関係ができました。

## (6) 研修①/自立活動研修会 (香野 毅 先生)

静岡大学の香野毅先生をお招きして、年間3回の自立活動研修会を行いました。特別支援学校の根幹とも言える、『自立活動』について、基礎的なことから、実践を通じての助言を学びました。

### 【自立活動とは】

ねらいは「調和的発達の基盤」

自立活動（基盤）＋各教科等＝調和的発達  
を目指していかなければいけない

### 【目標設定】

課題分析は『順位と順位をつける作業』

①生活・学習問題対応型

②ボトムアップ型

③トップダウン型

『実態と情報と願い』  
から分析をして目標を  
設定していく



自立活動は何かをできるようにするためではなく、『調和的発達の基盤』であることを改めて確認し、子どもの実態を捉えた後でどう課題を分析し、目標を設定していくかを学びました。

3回の研修では児童生徒の課題やつまずきを一緒に考えてもらうことで、新たな視点や支援方法を知ることができ、実践に活かすことができました。

## (7) 研修②/ASD、ケース会議 (弓削 香織 先生)

静岡県中西部発達障害者支援センターCOCOの弓削香織先生をお招きして、AD Sの障害についての専門性向上研修と、ケース会議の研修を行いました。

専門性向上研修では、AD Sの特徴や指導・支援のポイントなどを分かりやすく講義していただき、経験年数が様々な教員がいる中で、障害理解を深めることができました。

また、夏季休業中の研修では、ケース会議の役割や目的、臨むにあたっての心構えや進め方などを御講義いただきました。ケース会議では趣旨説明をしておくことの大切さや、「何が起きたか」より、「なぜ起きたか」「どう支援できるか」を一緒に考えることで、次の支援の手がかりにつながることを学ぶことができました。

### 【夏季職員研修の様子】



(8) 研修③/OT研修会 (伊井 玄 先生)

済生会療育センター令和のOT (作業療法士) の伊井玄先生をお招きして、子どもたちの身体の使い方について助言や講話をしていただきました。今回の講話のテーマは『姿勢について』や手の機能についてです。

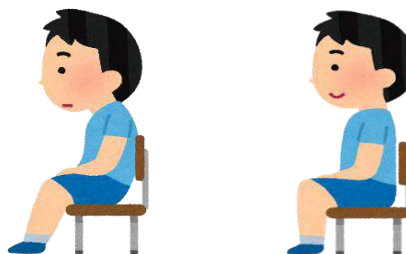
つい“いい姿勢”を取らせがちになりますが、大切なことは『何をしたい・何をさせたいのか』ということ学びました。

実際の指導場面でもたくさんの助言をいただきました。



【姿勢について】

- ・“姿勢”を考えるとということ
- ・どこを見て“いい姿勢”というのか
- ・何を目的にその“姿勢”をとるのか
- ・“いい姿勢”をとって何をしたいのか、何をさせたいのか
- ・取りたくて取っている“姿勢”なのか
- ・いつその“姿勢”になってしまったのか



(9) 研修④/食事場面の安全と危険を知ろう！～誤嚥・窒息の予防のために～ (大岡 貴史 先生)

7月30日に大岡貴史氏(明海大学歯学部 摂食嚥下リハビリテーション学)をお招きし、研修を行いました。研修冒頭に、「自分で食べている人の方が、介助で食べている人の3～4倍窒息しやすく、知的障害の有無で窒息するかどうかは30倍ほど違う」というお話があり驚きました。研修の大枠は以下の通りです。

- 安全な「食事」の前提 ■「食事」のトラブルいろいろ ■「ものが詰まる等」の事故要因別割合
- 3～5歳のトラブル要因 ■「自分で食べる」の連続的支援 ■障がい児における問題点
- 食べる機能に合わせた食事 ■成人の咀嚼・嚥下 ■嚥下・捕食機能獲得期 ■閉鎖不全の例(肢・知)
- 押しつぶし機能獲得期 ■すりつぶしの特徴的な動き ■咀嚼のためのかじりとり
- 上手な咀嚼と安全のために ■食事(食べさせ方)の問題 ■食べ方は変化しにくい
- かじらないから刻む? ■食具食べの課題・支援 ■食具食べの上達とは ■「食事」の将来予測
- 窒息事故経験者の食べ方 ■成人知的障害者の食事場面 ■施設入所者の食事の問題(107名)
- 問題に沿って支援する ■誤嚥・窒息をどう防ぐか ■危なそうな場合の対応例
- 窒息経験者への支援例 ■食事場面でのリスク①介入前 ■食事場面でのリスク②介入後
- 介入による問題点の減少 ■集団的な介入でも改善する ■障害者施設での食形態例
- 刻み食はばらけやすい ■お粥の性状と付着性 ■摂食支援が難しい理由 ■学童期の特徴
- 特別支援学校での食支援

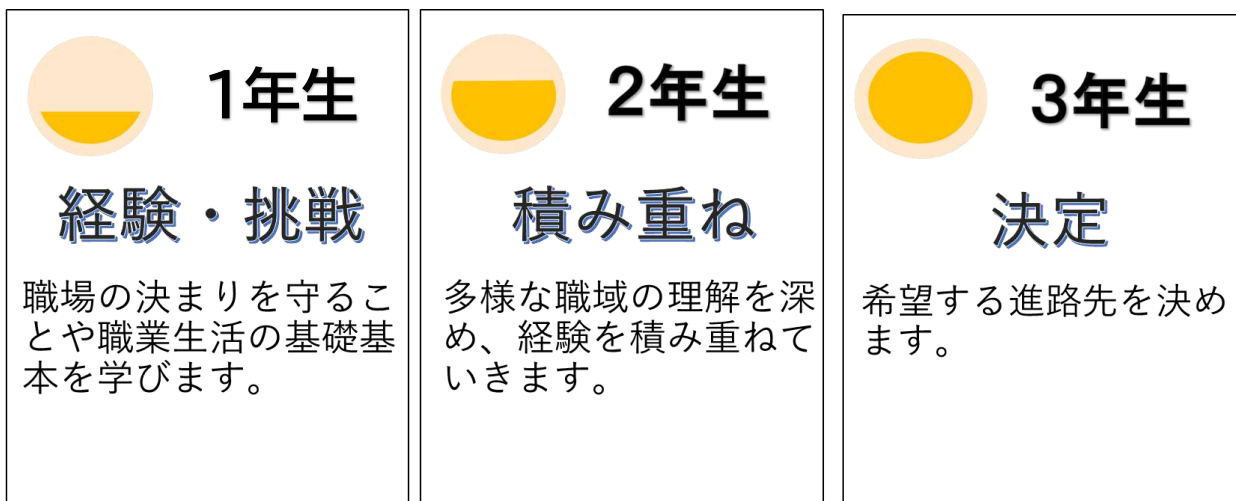
## 12 進路学習の記録

### (1) 職場見学、職場実習の計画（高等部）

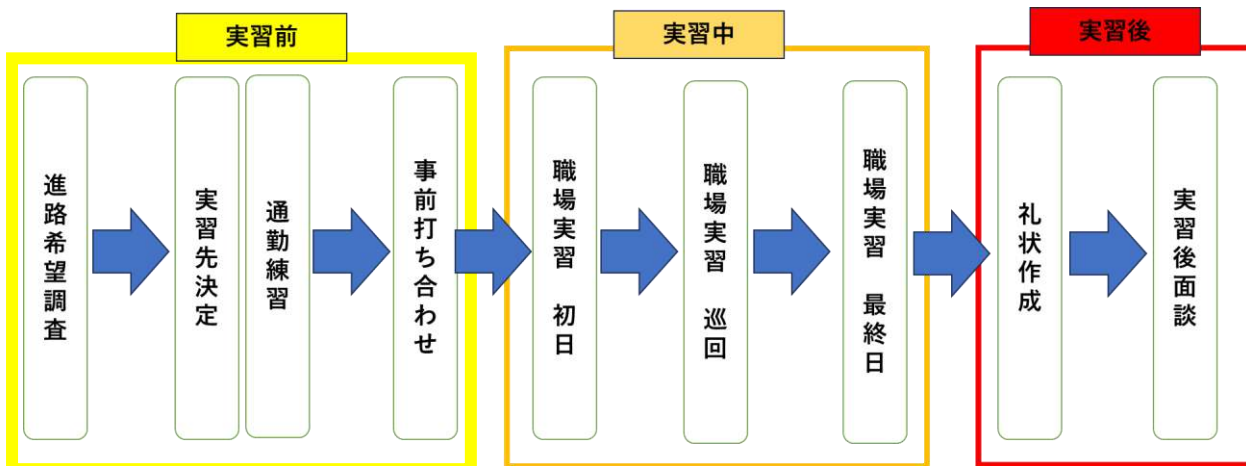
産業現場等における実習（職場実習）は、進路指導の中核をなす学習として位置づけられています。教室では得られないことがたくさん得られる場であり、学校や家庭で学習して身につけた力が、社会の中でどのくらい発揮できるか挑戦できる機会となります。



#### 職場実習テーマ



#### 実習の進み方



(2) 職場見学、職場実習に御協力いただいた企業(※令和7年度)

株式会社アイエイアイ、株式会社ノダ、株式会社小糸製作所、株式会社共栄  
日星工業株式会社、清水電装株式会社、株式会社カタヤマ、セイリン株式会社  
日立グローバルライフソリューションズ株式会社、株式会社日立産機システム、  
株式会社オーシーエス工業、日軽金オーリス株式会社、株式会社ソニック  
イハラニッケイ化学工業株式会社、レンゴー株式会社、有限会社藤浪工業所  
三井化学エムシー株式会社、有限会社市川木材加工所、鈴与商事株式会社  
株式会社アサヒセキュリティ、いなば食品株式会社、株式会社ヨシケイ、  
マルス食品株式会社、株式会社エムシステム、株式会社ヤヨイサンフーズ、  
東洋冷蔵フード&ロジスティクス株式会社、はごろもフーズ株式会社、  
佐川急便株式会社株式会社クミカ物流、ロジスティード中部株式会社、  
清和海運株式会社株式会社あいネットサービス、中電ウイング株式会社、  
しずぎんハートフル株式会社、株式会社ジェイエイしみずサービス、  
マックスバリュ東海株式会社、株式会社静鉄ストア、イオンビック株式会社、  
株式会社カインズ・ビジネスサービス、ウエルシアオアシス株式会社、  
株式会社ホンダカーズ静岡、トヨタユナイテッド静岡株式会社、  
株式会社エスファーム、okonomiyaki 道とん堀、株式会社王将フードサービス、  
株式会社なすび、株式会社日本平ホテル、株式会社浅野園芸、  
社会福祉法人慈照会特別養護老人ホーム浜石の郷、セントケア静岡株式会社、  
社会福祉法人清雲会特別養護老人ホーム巴の園、株式会社アクタガワ

### (3)生徒の学び

産業現場等における実習(職場実習)を経験することで、生徒は自身の良さに改めて気づいたり、より良さを伸ばすために努力することを知ったりします。実際に経験を通して学んだこと(生徒の言葉)を載せます。

#### ○生徒目標、実習に向かう決意

- ・資材を大切に扱って、丁寧に作業をします。
- ・休憩時間に周りの人とコミュニケーションをとります。
- ・部品の数え間違えがないように正確に数えます。
- ・職場の雰囲気慣れ、止まることなく作業に取り組みます。
- ・21時に就寝し、7時に起床します。
- ・職場の人に積極的に笑顔で自分からコミュニケーションをとります。
- ・清潔に気を付けて身だしなみを整えます。
- ・安全に作業するために職場の規則を守り仕事を行います。
- ・食品を扱う仕事であるため、清潔衛生面に気を付けます。

#### ○できたこと、褒められたこと、学んだこと

- ・昼休み休憩時間に自分からコミュニケーションをとれるようになりました。
- ・前回の反省を生かして自分から仕事に取り組むことができました。
- ・自分から職場の人に話しかけたことで、スムーズに仕事が進みました。
- ・包丁を扱って正確に食材の準備ができました。
- ・大きな声で挨拶や返事ができました。
- ・教えてもらったことをメモに取って確認できました。
- ・職場の規則を守り仕事ことができました。
- ・仕事は経験を積む必要があることを知りました。

#### ○今後の生活で努力すること

- ・作業スピードを意識しながら止まらずに行いたいです。
- ・作業中に困ったことがあったときにすぐに相談をすることが大切だと気づきました。
- ・仕事の目標数や目標時間を意識して作業に取り組みます。
- ・周りの人とよい関係ができるよう自分からコミュニケーションをとります。
- ・調理師になるために調べたり、質問したりして知識を深め、家でも実践したいです。
- ・メモの取り方を工夫します。
- ・学校や家庭で元気に挨拶や返事をします。

### 13 その他

#### (1) 清水区福祉事業所合同説明会(清水手をつなぐ育成会)

清水手をつなぐ育成会が主催し、清水地区福祉事業所 35 事業所が集まり、本校体育館で実施されました。知的障害・発達障害のある子どもたちの卒業後の進路選択にあたり、各事業所の事業概要や活動、サービス等について知ることを目的に開催されました。



## (2) 学校と企業の情報交換会

静岡県内の特別支援学校の生徒の就労を促進すること、また参加企業間、学校間での関係強化をはかり、業務開拓、キャリア形成のノウハウを共有することを目的に開催されました。「就労企業」と「教育現場」間で相互理解と関係強化を促進し、障がいのある方々が社会で活躍できるための取り組みについて活発な意見交換がされました。


令和7年8月19日（火） 清水特別支援学校 食堂

参加企業：JA 静岡厚生連静岡厚生病院、(株)アイエイアイ、鈴与商事(株)、矢崎部品(株)ものづくりセンター、(株)ノダ清水事業所、マックスバリュ東海(株)、丸六食品(株)、静岡鉄道(株)、中電ウイング(株)静岡支社、理研軽金属工業(株)、(株)スズキ・サポート、さんしんハートフル、ウエルシアオアシス(株)、しずぎんハートフル(株)、日軽金オーリス(株)、(株)アサヒセキュリティ



(3) 歯科指導（静岡市障害者歯科保健センター）

毎年、静岡市障害者歯科保健センターの歯科医師による各学部1年生保護者への歯科講話、歯科衛生士による児童生徒への歯科授業を行っています。対象学年は、歯の生え変わりや成長に合わせて設定しています。

小学部	中学部	高等部
<p>○1年生児童・保護者 『歯磨きを受け入れよう』</p> <p>○3年生児童 『自分で歯を磨こう』 『歯医者に行こう』</p> <p>○5年生児童 『おやつについて』</p> 	<p>○1年生生徒・保護者 『歯医者に行こう』 『磨くタイミング』</p> 	<p>○1年生生徒・保護者 『かかりつけの歯科医院をもとう』</p> <p>○3年生生徒 『かかりつけの歯科医院をもとう』</p> <p>※卒業後に向けて</p> 

(4) 寄贈図書「ロッキーブック」（静岡県労働金庫からの寄贈）

静岡県労働金庫様より、図書を寄贈していただきました。本取り組みでは「地域への貢献活動」の一環として、地域の子どもたちの健全育成を支援するため、静岡県内の特別支援学校へ図書を寄贈されており、本校では、令和2年度より毎年希望した図書を寄贈していただいています。寄贈された図書は、児童生徒から親しみを持たれるようくろうきん>の Mascot キャラクター「ロッキー」にちなみ「ロッキーブック」と呼称しています。

令和7年度は、中学部の希望を中心に、静岡について学べる本など16冊を寄贈していただきました。



(5) しみずみらい応援団 (JAしみずさんからの寄贈)

2024年11月、しみずみらい応援団の事業として、JAしみずさんから「屋外収納庫」「充電式噴霧器2台」「充電式耕運機」を寄贈していただきました。校内の環境整備や授業で活用させていただいています。特に、高等部の農工芸班では、年間を通じて畑作業を行っているため、耕運機がとても重宝しています。JAしみずさん、ありがとうございました。



(6) 特別支援学校支援事業 (公益財団法人スズキ教育文化財団からの寄贈)

公益財団法人スズキ教育文化財団の特別支援学校支援事業として、「紙屋栄三郎」を寄贈していただきました。高等部では、保善ボランティア活動として三保の松原で松葉かきを行っています。作業学習では、回収した松葉を使って「松葉紙」を作っており、今後の作業学習で有効活用させていただきます。スズキ教育文化財団の皆様、ありがとうございました。



### (7) 清水特支おやじの会

清水特別支援学校には「おやじの会」と呼ばれるものがあります。保護者の方たちの熱い思いのこもった会であり、校内外行事等にて、駐車場誘導やお祭りの出展支援等を行っていただいています。保護者の皆様の熱い思いを受け止めさせていただき、大切なお子さんとしっかりと向き合ってください。教育パートナーである保護者の皆様には職員一同、心から感謝しております。いつも本当にありがとうございます。



<R6. 11 飯田祭りにて>

<以下「おやじの会 加入のお誘い (R7. 4)」の文書>

学校現場では、限られた人数の先生方により、毎日の学校運営や保護者参加の学校行事等の企画実施に尽力して頂いています。おやじの会は、先生方が十分に子どもたちに向き合える時間を持って頂くため、先生方をできる範囲でお手伝いしようという趣旨で活動しています。 ついては、一緒に取り組んで頂ける方を募集しますので、趣旨にご賛同いただける方は、別紙の登録シートにご記入の上、任意の封筒に入れて〇〇宛に提出してください。

### (8) セントケア八坂東さんより

清水特別支援学校のすぐ隣に「セントケア八坂東」さんがいます。入学式、卒業式にはいつも素敵なお祝いメッセージを掲示していただき感謝しております。また、総合防災訓練と一緒に参加していただいたり、高等部生徒が職場実習等でもお世話になったりしています。セントケア八坂東さん、いつもありがとうございます。今後ともよろしく願います。



<総合防災訓練にて>



<入学式、卒業式の素敵なお祝いメッセージ>

### (9) カメラマン望月導章さん

今年度に入り校内のあらゆる行事において、望月導章さんにこどもたちの輝きを撮影していただいています。撮影頂いた写真は毎回校内掲示して楽しませていただいています。



小学部「運動会」、中学部「スポフェス」、高等部「三保の松葉かき」「スポーツ大会」、そして輝きブック表紙用の全校写真等、何回も何回も学校に足を運んでいただきました。高等部のスポーツ大会の写真掲示をした時、ある生徒が「写真だけ動いているみたい！」と一言、その時々瞬間が頭の中でよみがえる程、夢中になって見てしまう写真ばかりでした。

望月導章さん、いつもありがとうございます。今後ともよろしくお願いします。



### (10) カメラマン杉山洋一郎さん

入学式や卒業式で、地域ボランティアの杉山洋一郎さんに、こどもたちの輝きを撮影していただいています。撮影当日は、朝早くから撮影場所の確認等も行っていただきありがとうございます。



杉山洋一郎さん、いつも素敵な写真をありがとうございます。

### (11) 清水エスパルスオフィシャルチアリーダー

#### オレンジウェーブ チアダンス

2024年9月6、9日に清水エスパルスオフィシャルチアリーダー オレンジウェーブの方がチアダンスを教えてくださいました。元気いっぱいのチアリーダーのお手本を見ながら、まねをしてチアダンスを楽しみました。昼休みの短い時間でしたが、思いっきり体を動かし、たくさんの児童生徒が参加することができました。



## 14 金澤翔子さんへ

金澤翔子さんが書道家活動に一区切りをつけるとお聞きしました。金澤翔子さんには、開校当初から大変お世話になっており、本校正門や校舎に掲げてある金澤翔子さんの「静岡県立清水特別支援学校」の文字は本校の自慢です。職員の名刺、学校封筒や学校案内の学校名も金澤翔子さんの文字を使用させていただいています。また、開校10周年時には本校まで足を運んでいただき、「共に生きる」の揮毫の様子を拝見させていただきました。今後とも御活躍を祈念しております。金澤翔子さん、ありがとうございました。

<p>令和7年度 後編 高等部生徒会活動</p> <p><b>金澤翔子さん</b></p> <p>清水特支の正門の学校名、 体育館の「共に生きる」を書かれた書家、 金澤翔子さんとはどのような方でしょうか、 生徒会で調べました。</p>		<p><b>生い立ち</b></p> <p><b>学生時代</b></p> <p>金澤翔子さんは、小学校、中学校、高校と一貫して、「書道家」としての道を歩まれたようです。金澤翔子さんは、小学校1年生～3年生まで、普通学級にいました。4年生で、特別支援学校にはいりました。</p>
<p><b>生い立ち 幼少期</b></p> <p>1985年6月12日 東京都出身</p> <p>新生児期（生後すぐ）に敗血症となり敗血症に伴いダウン症と診断される</p> <p>5歳から母である書家の泰子さんの指導で書道を始め、幼い頃から書の才能を発揮する。</p>		<p>1992年、金日本学生書道連盟展に「花」を初出品</p> <p>1999年「龍」を出品し原賞を受賞</p>
	<p><b>卒業後</b></p> <p>書道家としての活動として平行して、2004年12月に東京・大田区の商店街に「アドリエ美術」をオープンし、接客スタッフとしても活動している。</p> <p>NHK や日テレなど、さまざまな番組に出演している。</p> <p>NHKプロフェッショナル仕事の流儀、福祉ネットワーク、E!TV 特集、スタジオパーク</p> <p>日テレ「しゃべくり007」、24時間テレビ、ニュースZERO、ラジガク</p> <p>TBS 情熱大陸、中居正広の金曜日のスマイルたちへ、音楽の日、ニュース23、じよんのが世界遺産テレビ 徹子の部屋</p> <p>フジテレビ アナとらび〜、ザベストワース1・2・3</p>	<p>2000年、「延命十句観音経」を出品して原賞を受賞</p> <p>2001年、「舍利札」を出品し、学生書道としては最高位である金賞を受賞</p>
<p><b>金澤翔子さんの作品</b></p> <p>テーマ紙「光」と「陽」「飛」「龍」など、力強くも温かい漢字が多く、NHK大河ドラマ「平清盛」の題字も手掛けるなど、幅広い作品がある。</p>		
		<p><b>今後</b></p> <p>書家を引退されるという話を聞きました。今後のことについて、さらに生徒会で調べていきたいと思っております。</p>



開校10周年 記念式典の様子

高等部生徒会が中心となって、金澤翔子さんについて調べました！写真は、作成した掲示物です。

### 【コラム⑤】雪と虹

12/12(金)かがやき参観会の前日の放課後のこと、ふと外を見ると大きな虹が見えました。写真では一重ですが、この後なんと二重の虹に。次の日の準備



をしていた職員からも歓声が聞こえました。また、年が明けた2/8(日)には静岡では珍しく雪が降り、グラウンドや芝生広場にも雪が積りました。2/9(月)に登校した生徒たちは、雪だるまを作ったり、雪を丸めて投げあったり…。どちらも貴重な時間でした。

## 15 編集後記

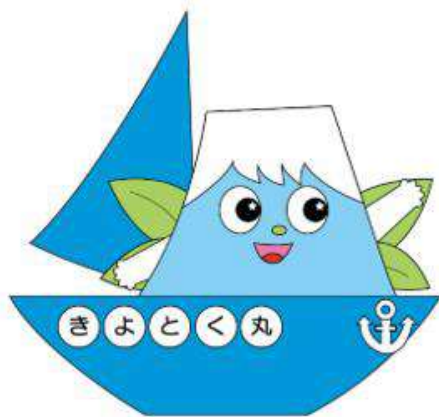
令和7年4月、今年度の教育活動をまとめ、児童生徒の輝きや児童生徒を支える教職員、保護者、地域の支援の輪を見取り今後の教育活動につなげることを取組目標に「輝きBOOK 編集プロジェクト」が発足しました。当初は手探りの状態での編集活動でしたが、初代校長の太田実先生や16年前の初版記念号の編集にかかわった方の思いを受け、無事に「輝きブック」が発行できることを嬉しく思うのと同時に、完成した冊子を手に取りながら編集委員のメンバーで編集活動を振り返っているところです。5年、10年、20年と時が経ち、児童生徒、保護者、職員が入れ替わって新しいメンバーとなった時でも、清水特別支援学校にかかわってきた歴代全ての人の熱い思いが、この輝きブックを通して引き継がれていくことを願います。この冊子が、より輝くようにしたいと思います。

現在の清水特別支援学校は、ホームページ、X、Instagram、学校だより、地域での作業製品販売会やお祭り参加、作品展示等、校内外、多くの場所で児童生徒の輝きを発信しています。今後、今まで以上に、清水特別支援学校を支えてくださる地域の方々とのかかわりが深まっていく中で、その情報を広く発信し、更に新しい出会いやかかわりが生まれていくと思います。そして、地域の全ての人から「清水特別支援学校があってよかった」と心から思っただけのように、頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、輝きブック発行にあたり、多大な御協力をいただきました望月導章さんをはじめ、原稿作成に御協力いただいた全ての方に心から感謝の気持ちをお伝えし、編集後記とさせていただきます。



令和7年度 輝き BOOK 編集プロジェクト委員  
＜小学部＞ 廣 国睦 山本月乃  
＜中学部＞ 香月文吾 中澤裕司 白鳥史野  
＜高等部＞ 伊藤省吾 川原貴之  
＜作成年月日＞ R 7. 4. 1～R 8. 3. 31



清水特別支援学校オリジナルキャラクター  
「きよとくまる」